

# 「一窯一試」 たゆまぬ挑戦

## 芸術院会員 武腰敏昭さん死去 悼む声



絵付けに励む武腰敏昭さん—2010年3月、能美市寺井町

### 能美に大きな功績

井出敏朗能美市長 1週間ほど前に個人展会場でお会いしたばかりで大変驚いている。九谷陶芸村のビッグモニュメントや、無鉛釉薬の鮮やかな色彩など、育てられた若手を含めて大きな功績を能美市に残していただいた。感謝と敬意しかない。先生の思いを絶やさないうち、九谷焼の振興に取り組んでいきたい。

### 「工芸王国」の誇り

谷本正憲石川県知事 ぐいのみからモニュメントまで幅広い作品を手掛け、晩年は環境や安全に配慮した無鉛釉薬を開発し、九谷焼の世界に新たな風を吹き込まれた。県立九谷焼技術研修所の講師・顧問として技術保存や後継者育成に尽力いただいた。「工芸王国石川」の誇りであり、心から「冥福をお祈り申し上げます」。

## 無鉛釉薬普及に尽力

(82) 輪島市は「陶芸と漆で表現法は違つが、壁画なども手掛ける絵画的な才能やスケールの大きさ、幅の広さに感服していた」と惜しんだ。

長男で陶芸家の冬樹さん

(58) 能美市によると、武腰さんは7年前にがんを患っており、数月前から再発などによって飲食が困難になり、27日夜に体調が急変した。

創作への情熱は最期まで衰えなかった。20日に能美市九谷焼美術館浅蔵五十吉記念館で始まった個展「わが人生の歩み 陶壁と無鉛釉の世界」(北國新聞社後援)の準備にも余念がなく、家族の制止を振り切って入院先の病院から会場へ足を運んでいたという。

父の執念を目の当たりにしていた冬樹さんは「現状に満足せず、展覧会の出品作も2〜3年おきに作風を変えていた。常に上を見ていた」と振り返った。訃報を受け、同記念館は8月1日までの個展会期を同7日まで延長することを決めた。中矢進一館長は「自身の集大成と位置付け、開幕前日には自ら陳列指導をしてもらった。追悼の意を込めて会期を延ばし、武腰先生の思いに応えたい」とコメントを寄せた。

工芸史が専門の山崎達文金沢学院大名教授は「古くからの課題だった無鉛化に信念をもって取り組み、新たな九谷の色を創出した功績は大きい」と評した。鍋木基由九谷陶磁器商工業協同組合連合会理事長は「大家でありながら上下の別なく接してくれ、あの笑顔と優しい言葉に励まされた若手も多い。業界にとって大きな損失だ」と悔やんだ。

「一窯一試」。九谷焼に新風を吹き込んだ武腰敏昭さんは、そんな自身の造語を座右の銘としていた。窯を持つ陶芸家一人一人が、失敗を恐れずに新たな試みに挑む。日本芸術院会員の座に安住することなく、革新の道を進んだ生きざまを象徴する言葉だ。石川県内の美術関係者からは、たゆまぬ挑戦をねぎらい、悼む声が上がった。

### 【1面に本記】

同じく日本芸術院会員の院会員として石川の工芸界陶芸家大樋陶治斎さん(93)を引継ぎ張ってほしい。文化勲章受章者、金沢市は、武腰さんと陶芸談議に花を咲かせた思い出を振り返り、「一回り下の芸術

親交のあった日展特別会員の漆芸家小西啓介さん

吐露した。

急変した。

とコメントを寄せた。

悔やんだ。